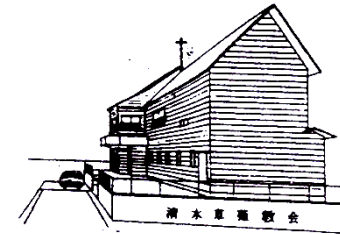


週報

2008年 8月 10日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

《今朝の聖書から》夏は、神様がそのように備えてくださったのですから暑く、与えられた素晴らしい四季の一つです。“もう真夏のように暑いですね”で始まり“秋だというのに暑いですね”とばかり、毎年繰り返していても、夏の恵みを味わったことにはなりません。思い出に残る夏の過ごし方をしたいものです。そこで聖書が記録している、幾つかの物語を夢中で読んでみては如何でしょうか。今朝の個所は“姦淫の女”の物語といわれている個所です。宮で教えられた一日を終えられ、山に登られ、翌日に降りてこられた時のこと、何時ものように律法学者たちがイエス様を告発しようと、待ち構えていました。律法にはこのようにあります。“姦淫の罪は石打(死刑)にされなければならない(申命記 22:23)”。この女をダシに彼らはイエス様から矛盾を引き出そうとしたのです。“あなたならどうする”と言い続けます(8:5)。イエス様は黙って、考え直すのを待つように彼らを見捨てられます(8:6)。彼らはイエス様から“打ち殺すべきだ”とも“赦すべきだ”という答えも得られません。“殺すべきではない”と言えば、先の律法に違反することになります。また、“打つべきだ”といえ、主の罪人に対する憐れみを説く、普段のイエス様の教えと矛盾するとともに、“律法と対立させること”によって、石打などの死刑に値する重大な罪に対する裁きを掌握していた、ローマと対峙させることになり、彼を有罪に落とそうと考えました。“ああ言えばこういう、こう言えばああいう”というやり方は、私たちも考えることではないでしょうか。特に、あまり分がよくない時に考えるのではないのでしょうか。そこには、目的の実現に向けた熱心さが見えます。パリサイ人と呼ばれる人々も熱心さにかけては自信をもっていました。当時民衆の信仰活動の潮流の一つになっていたのは、熱心さに支えられていたといえるでしょう。神に対する熱心さです。しかし、聖書によれば“神に対する熱心さは正しい知識によらない(ローマ 10:2)”場合もあるのです。Iペテロ 4:17には、熱心であると自覚している神の家から裁きが始まるとあることにも心を留めましょう。私もあなたを罰しない(8:11)”というイエス様の言葉に思いを向けたいものです。すべての人の贖い主は、からしだね一粒ほどの信仰を見ておられるのでしょうか。